

体研連 さっぽろ



札幌市学校体育研究連盟

令和 7年 2月18日 第207号

編集：編集部 札幌市立元町小学校

発行：事務局 札幌市立澄川南小学校

文責：吉野 令欧奈（本町小学校）

令和6年度 札幌市学校体育研究連盟 冬季学習会

令和7年1月10日（金）札幌市立中の島小学校で冬季学習会が開催されました。いよいよ全国大会開催の年です。研究理論、実践に向けた交流など、充実した会となりました。御参会いただきありがとうございました。



学習会Ⅰ 【各大会の振り返り、報告】 【全国大会に向けた理論等】

全道大会の成果と課題

<成果>

教材づくりや課題を見付ける活動を考える際、教師がしっかりと意図をもつことで、子どもたちが主体的に学習に取り組む姿（+仲間と関わる姿）が見られた。

<課題>

課題を見つけた子どもたちの活動を更に活性化させるための手立てを考えていく。（交流の行い方、教師の関わりについて）

全国大会（山口大会）視察から

子どもが感じている課題と設定している課題が近くなるには…

- ・子どもの「～したい」という課題を見付ける手立て
- ・作戦や選択した運動などが自分の課題に合っているか
- ・ICTの活用
- ・主体的に学ぶ子どもたちの姿を授業の最後まで保ち続けること
- ・運動：交流の際に動きに着目した交流が進められるように
- ・保健：自分事となる課題設定

全国大会に向けた研究理論

共生の視点で

教師が子ども理解を深めながら

単元レベルで子どもを育てていく

「研究の視点」→「研究の柱」へ

柱1『子どもの「～したい」を生む教材づくり』

柱2『子どもが自ら課題を発見し、解決するための手立て』

柱3『子どもが自分に合った方法で学習できる学習過程の工夫』

何を指導し、何を評価し、どのような関わりをするのかを授業を通して主張していきたい。

学習会Ⅱ 【授業実践交流、領域についての交流等】



6グループ・14 実践についての発表があり、授業者が実践を通して考えたことや授業づくりのポイントなどについてグループごとに交流をしました。実践の多さもさることながら、子どもの学びを深めるための工夫がたくさんあり、目の前の授業そのものをよりよくしていこうという熱意に溢れていました。

研修会及び実践交流の資料は研究部より皆様へ配信されております。
是非、資料を御覧いただき、今後の授業実践や授業作りに御活用ください。

学習会Ⅲ 「体育人の先輩から後輩へのメッセージ」

講話Ⅰ 札幌市立北野台小学校長 堀江 仁 様

振り返ると、連盟ではサポートする役割を主にしていたように思う。全国大会での思い出もたくさんあり、たくさんの貴重な経験をさせていただいた。特に、これまでお世話になった諸先輩方には、仕事だけでなく、よく声を掛けていただき、今も感謝しながら過ごしている。後輩の皆さんには、今の繋がり、この後の人間関係を大切にしながら、体育実践および学校での仕事などを頑張ってもらいたい。



講話Ⅱ 札幌市立篠路西中学校長 鈴木 隆史 様

12年間で、どんな技能を身に付けて社会に出していくかを考えて、中学体育を研究してきた。プロのプレーヤーは素晴らしいプレーができるまでに、反復練習もたくさんしてきたはずである。その簡単にできないことに、子どもが挑戦していることを念頭に置いて指導していく必要がある。これからも、身近な子どもたちを見つめて、教師一人一人が教育について考えていくことを大切にしたい。

